

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。  
〔a…よくあてはまる、b…あてはまる、c…あてはまらない、d…まったくあてはまらない〕  
※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価  
( )内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好  
B…良好(目標)  
C…検討が必要  
D…再検討・改善

重点	経営ビジョン	具体的な取組(重点項目)	質問紙NO.	評価の観点	達成基準	4月	7月	12月(現状)	結果分析・改善	学校運営協議会	次年度に向けて
1 学校経営の充実	学校評価を生かした学校経営の充実	【1. 教育目標・めざす生徒像】 (豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成) ○4つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め合う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさとに誇りを持つ生徒  【2. 具体的な取組(Plan)】 ○カリマネの柱である「学び合い高め合う力」に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	① 生徒	学校は楽しい	a+b A-90% B-80% C-70%	98%  A	98%  A		○7月評価(Check) 【評価・分析】 「学校は楽しい」という項目では生徒、保護者いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。特に「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が4月より若干増加した。一方、「あてはまらない」と回答した生徒は2%で1人である。 「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする」という生徒の項目においては、100%の回答であった。 「先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる」の項目においては、特に「よくあてはまる」と回答した生徒の割合は20%増加した。保護者においても4月より10%向上した。  【7月評価時点での成果と課題】 1学期に行われた学年行事や学校行事等の活動が、生徒にとって充実した活動となっていた。また、友だちや先生とよい関係が築けている。生徒指導の共通実践である「ほめ・認め」の声かけを日頃から先生方が意識して実践したり、生活アンケートで生徒の様子を把握し、悩みや困りごとの相談がしやすい環境を整えたりしていることが肯定的な回答の増加につながったと考えられる。 一方で、物事に対して前向きに捉えられない生徒に対して、学校生活に充実感をもてるように仕向けていく必要がある。主体的に取り組む協働的な活動を通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく「絆づくり」や生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す「居場所づくり」に努めることが大切である。  ○目標・計画の再設定(Action) 今後も生徒が主体となる活動を大切にしていく。生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みに気づいて声をかけたりするなど、いつでも相談できる関係を教師自身が作っていくことが今後も大切である。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていく。	<前期>1～3のアンケートの「楽しい」「先生は相談にのってくれる認めてくれる」の当てはまるの割合がすごく高くていい。行事の充実等も出たのですが、先生から生徒への働きかけが適切でそして生徒もそれをそう受け止めているのだと思う。	
			① 保護者	お子さんは、学校は楽しいと思っている	a+b A-90% B-80% C-70%	93%  A	91%  A				
			② 生徒	先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%  A	100%  A				
			③ 生徒	先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる。	a+b A-90% B-80% C-70%	93%  A	95%  A				
			② 保護者	学校はお子さんの良い所や頑張ったことを認めてくれる。	a+b A-90% B-80% C-70%	88%  B	98%  A				
			③ 保護者	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	93%  A	93%  A				
			5 教師	校務分掌や主任が適切に機能し、組織的に活動が行われている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%  A	100%  A		【評価・分析】 組織的な学校運営については100%であり、目標を達成できた。  【7月評価時点での成果と課題】 全員で全学年を担当しているので、学年の取組を主任会議で図ったり、報告・連絡・相談を密にしたりしていく必要がある。アプリ(tetoru)を使って保護者へ情報を発信しており、確実に伝わることから保護者の評価が上昇したと考えられる。  ○目標・計画の再設定(Action) 全教職員の共通理解を図り、主任を中心に組織的に取組を進めていく。これからも家庭・地域に向けた積極的な情報発信をしていく。		
2 生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・授業で自ら進んで課題に取り組んでいる生徒 ・授業で友達と学び合うことができる生徒  【2. 具体的な取組(Plan)】 ・校内研究授業の充実 ・GIGAスクール構想の実現	⑥ 生徒	授業では自ら進んで課題に取り組んでいる。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	35(79)  D	43(93)  C		<前期>生きる力につながる学力をつけるというのは生徒に周知しているものなのか。どんな力をつけたいのか具体例を子どもに提示してあげ、共通理解して取り組んでいくといいのではないと思う。		
			10 教師	授業では自ら進んで課題に取り組むよう指導している。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	43(100)  C	71(100)  A				
			⑦ 生徒	授業で自分の考えとその理由を持つことができている。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	33(91)  D	31(93)  D				
			11 教師	研究主題に向けて重点を取り入れた授業づくりをしている。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	43(100)  C	43(100)  C				

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート（家庭学習ノート）の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム（全校生徒で学習する時間）を実施 ・テスト前にガリ勉タイム（自主学習時間）の確保	⑧生徒	家で、ガリガリノートやワーク等を使って、学んだことを復習している。	a+b A—90% B—80% C—70%	72%  C	84%  B	〇7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒が4月の72%から84%へ12%増加した。目標には到達しなかったが保護者、教員とも増加傾向にある。 【7月評価時点での成果と課題】 教師の評価は100%であり、具体的な取り組み(plan)を実行できているということが分かる。それに合わせて生徒の評価も上がっているのは良い傾向である。しかし、保護者の評価があまり改善されていない。ほとんどの生徒が毎日の家庭学習の課題に取り組み、提出もできているのに評価が低いのは、保護者が見ていないところで取り組んでいるからなのか、それ以上の取り組みを求めているのかが分からないが、まずは生徒の評価をA評価へ近づけていくことが重要である。 ○目標・計画の再設定(Action) 具体的な取り組みを継続して確実に実施していく。さらに、家庭学習の取組は個人によって差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言することで家庭学習への意欲を高めていく。また、授業の中でも、家庭学習で取り組める内容を紹介することで充実させていきたい。学校で取り組ませている内容については、テトル等で保護者への周知も行っていきたい。	⑦保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A—85% B—75% C—65%	60%  D	66%  C		＜前期＞小中連携で、生徒指導も含めて一緒に取り組んでいくところで、二学期は家庭学習習慣を小学校と中学校が揃えて取り組む予定である。かつては取り組んでいたことかもしれないが、復活させられそうなので、一緒に学習が充実するようにしていきたいと思う。	
			1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A—90% B—80% C—70%	75%  C	100%  A										
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒  【2. 具体的な取組み(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもんの羽」（友達の良い行いを伝え合うカード）の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う	⑪生徒	友達の良い行いや長所を見つけている。	aの割合 A—65% B—50% C—35%	42(95)  C	45(97)  C	〇7月評価(Check) 【評価・分析】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる。」の項目では、4月からあまり変化はなく目標には達成しなかった。「あてはまる」まで見ると良好である。「友達に対して思いやりの心で行動している」は4月と同じで目標を達成することができた。  【7月評価時点での成果と課題】 行事において友だちや他学年のよいところを見つかることができ、行事後に振り返る場面があった。また、生徒会で「ありがとう」の感謝を伝える取り組みを行い、生徒の意識が高まった。こうした活動を継続することによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。一報、教師の「よくあてはまる」が38%であり、教師の働きかけに課題がある。  ○目標・計画の再設定(Action) 生徒会と連携し、生徒同士が互いの良さを認め合ったり、感謝の気持ちを伝え合ったりする機会を設定していく。また、教師自身が生徒たちの良いところを見つけて伝えていく取組を充実させることで、生徒たちの思いやりの心を育むようにしていきたい。〇4thの「いいところみつけ」を活用し、指導記録的な側面だけでなく、生徒の良さも記録し、共有できるよう運用する。						＜前期＞継続していく。		
				1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	aの割合 A—65% B—50% C—35%	38(100)  C	38(88)  C									
				⑫生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A—95% B—85% C—75%	95%  A	95%  A									
				⑩保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A—95% B—85% C—75%	95%  A	98%  A									
				1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育つよう指導している。	a+b A—95% B—85% C—75%	76%  C	100%  A									
	心と体を鍛える生徒の育成「体」		【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒  【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑬生徒	友達と意見を出し合ったり、協力し合ったりして学校生活をより良くしようとしている。	a+b A—95% B—85% C—75%	86%  B	92%  B	〇7月評価(Check) 【評価・分析】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見ると91%と概ね良好であるが、「よくあてはまる」は36%と4月から1%下がり、目標を達成することができなかった。保護者の評価は91%と変化がなく、教師の働きかけ「よくあてはまる」は4月から上昇した。また、「学校生活をよりよく」の項目は6%上昇した。  【7月評価時点での成果と課題】 普段から、校舎内で出会った者同士のあいさつはできているが、生徒会等であいさつ運動等を行いさらにより良いものになるよう活動していったり、教師側も挨拶を返すだけでなくそうした良い行いを認めてあげる声かけが必要である。自律清掃について、心を磨くという姿勢を意識している者は少ないように思う。清掃に限らず学校生活において必要であると思われる課題に自ら進んで取り組む姿勢を育てていく必要がある。  ○目標・計画の再設定(Action) 生徒会とも連携して、一日を通してよりよいあいさつができるようにしていきたい。また、生徒達が自分たちの学校生活の中での課題を見つけ、解決できるように学級活動や委員会活動等を充実させていきたい。						＜前期＞大人でも挨拶しない人はいるが、社会に出た時に挨拶できる人とできない人で一番最初にそれによって評価される。子どもは、学校内や知っている人には挨拶するけど、外ではできなかったりする。社会に出たときに挨拶はやはり一番大事だと思う。だから、挨拶運動をわざわざやって、子供達にあいさつできるようにしようというのは大事なことだと思う。いまのうちから何か仕掛けや働きかけをしていくことは大事である。		
				1 7 教師	授業だけでなく、生徒会や委員会活動、学級活動を通して子供主体の時間を設定している。	a+b A—95% B—85% C—75%	88%  B	100%  A									
				⑭生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	aの割合 A—65% B—50% C—35%	37(90)  C	36(91)  C									
				⑪保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A—90% B—80% C—70%	91%  A	91%  A									
				1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	aの割合 A—65% B—50% C—35%	25(100)  D	50(88)  B									
	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」		【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒  【2. 具体的な取組み(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫（地域教材の活用、地域GTの活用） ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑰生徒	地域に関心を持ち、ジオ学習に取り組んでいる。	aの割合 A—70% B—60% C—50%	23(79)  D	40(83)  D	〇7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、ジオ学習に取り組んでる」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は17%上がった。「地域とつながりを感じる機会がある」の割合は91%と、4月から若干増加した。  【7月評価時点での成果と課題】 各学年の総合的な学習の時間でジオ学習が始まり、また、ジオパーク遠足や城山整備作業を通して、地域とのつながりを感じることができた。それぞれの学習において、自ら考え、学び、地域への理解が深まるような手立てが必要である。  ○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に計画的に活用する。また、活動の後は振り返る機会を持ち、地域の良さを実感できるような場面を設定する。						＜前期＞継続していく。		
				2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように指導している。	aの割合 A—70% B—60% C—50%	38(88)  D	50(88)  C									
				⑱生徒	地域とつながりを感じる機会がある。	a+b A—90% B—80% C—70%	88%  B	91%  A									
				2 2 教師	地域とのつながりを感じることができるように指導している。	a+b A—90% B—80% C—70%	88%  B	88%  B									